

実効性のある道路構造物の長寿命化計画策定を支援

テーマ	道路構造物の長寿命化計画
キーワード	長寿命化計画、個別施設計画、修繕計画 橋梁、トンネル、シェッド/シェルター、舗装、横断歩道橋、道路附属物

予防的な修繕への転換

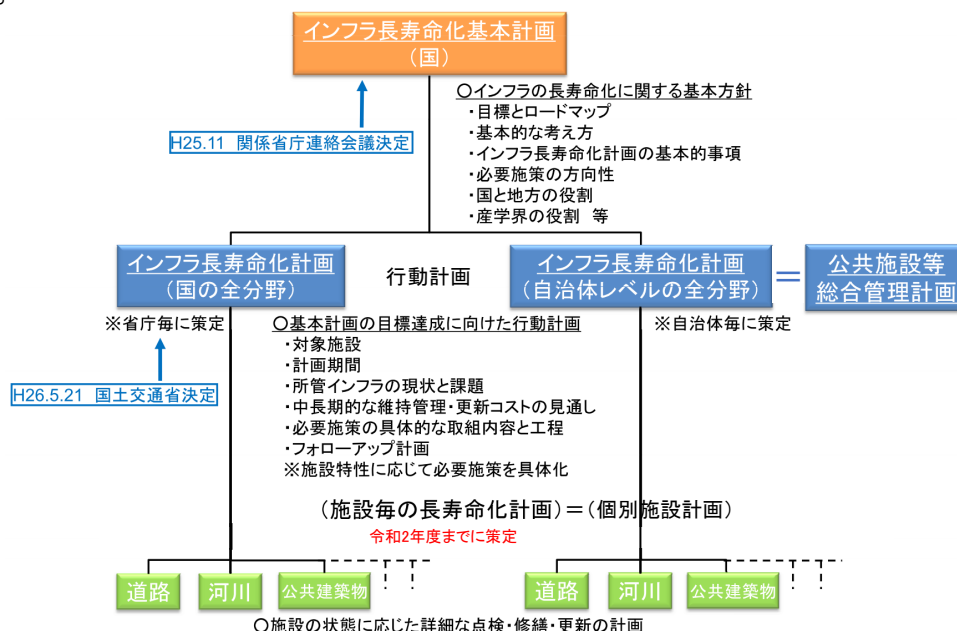
高度経済成長期に建設された橋梁の多くは、今後急速な老朽化の進行が予想されています。そのため、定期点検による状態の把握、予防的な修繕及び計画的な架替えを着実に進め、ライフサイクルコストの縮減を図りつつ、重要な道路ネットワークの安全性・信頼性を確保していくことが必要となります。また、国土交通省インフラ長寿命化計画（行動計画）（H26.5）より、橋梁等の各施設の長寿命化計画の策定が求められています。

当社では、自治体が管理する道路構造物を対象に、これまでの対症療法的な修繕・更新から予防的な修繕へ転換し、施設の長寿命化を目指した「長寿命化計画」の策定を支援いたします。長寿命化計画策定後も、橋梁の状態は、経年劣化や疲労によって時々刻々と変化することから、定期点検サイクル等を考慮の上、点検結果等を踏まえて適宜計画を更新することが必要となります。

長寿命化計画の位置づけ

長寿命化計画の位置づけは以下のとおりです。

長寿命化計画策定対象となる道路施設は、橋梁、舗装、トンネル、シェッド、附属物などがあります。



※「国交省資料インフラ長寿命化計画（行動計画）解説」P6を一部編集

長寿命化計画の位置づけ

日本工営株式会社

お問合せ

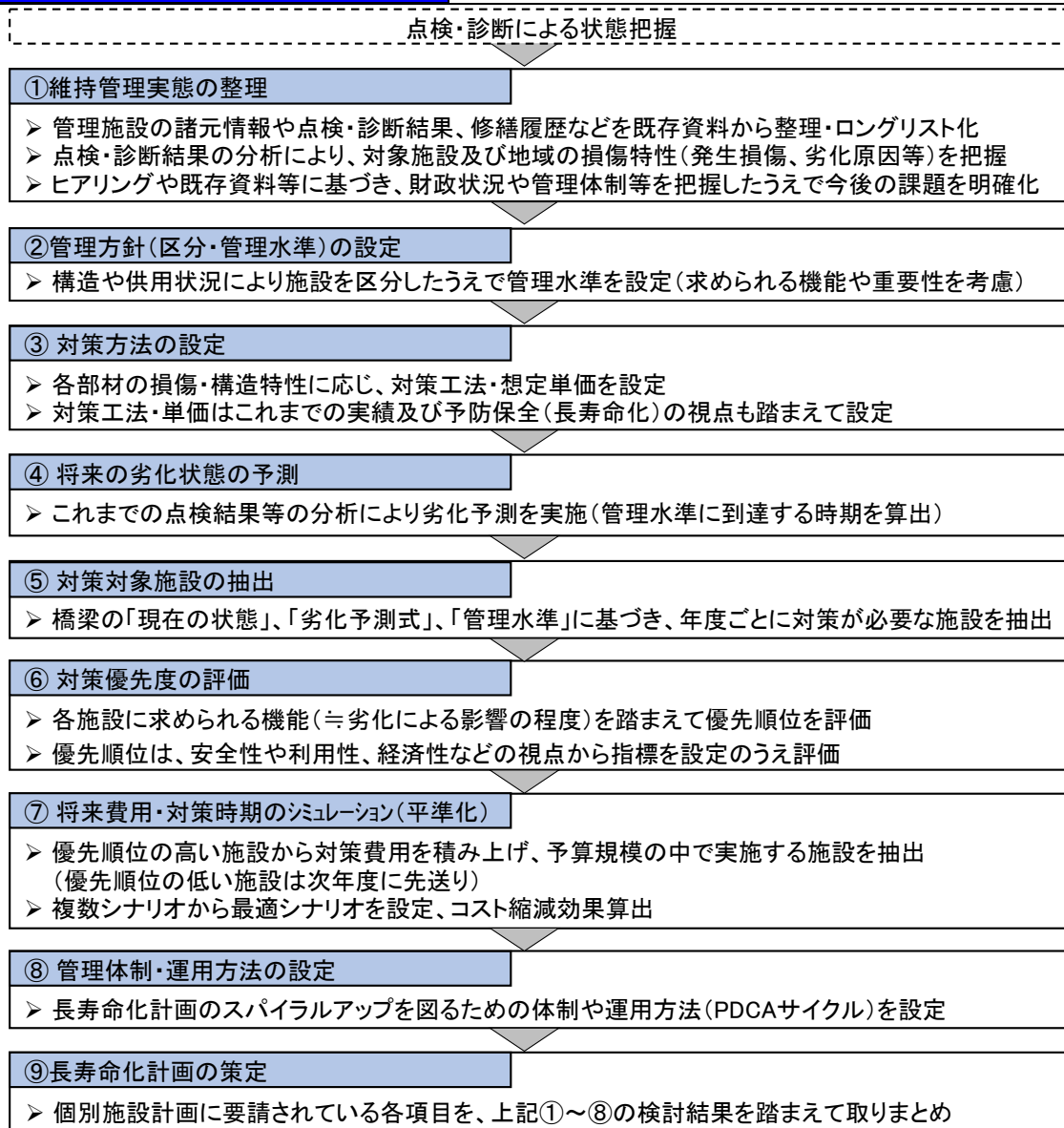
内容に関するご質問は、以下のページからお問い合わせ下さい。

URL <http://www.n-koei.co.jp/contact/>

技術ポイント

- ① 地域特性・供用環境など施設の劣化要因や機能・役割に関する特性を十分に把握した上で、長寿命化計画を策定します。
- ② 点（施設）と線（路線）と面（ネットワーク）を考慮して管理区分を設定し、施設の状態（健全度）を踏まえた優先度評価を行います。
- ③ 実効性のある具体的な計画とするため、修繕内容・時期の設定だけではなく、今後の点検・管理体制及び運用体制（PDCA サイクル）まで立案します。

実施内容



関連実績

- 地方自治体における長寿命化計画・個別施設計画の策定及び改定業務 多数自治体で実施
対象施設：橋梁、トンネル、シェッド・シェルター、舗装、附属物、横断歩道橋
- その他、公共施設等総合管理計画の策定・改定、道路施設管理における新技術や新たな管理手法（官民連携等）の導入検討なども実施